

「へんてこを描こう」と宮西達也さん

高知・黒潮町立拳ノ川小でオーサー・ビジット

「みんな、へんてこを描きましょう！」
絵本作家・宮西達也さんの言葉に、少しげんそうな子どもたち。みんな恐る恐る、ペンを走らせます。

「ちょっと、めちゃくちゃ変にしたけど、いいかなあ」なんて自信なさそうな声も。でもそのうち、みんな調子に乗ってきました。「いいこと考えた!」「オバケ描いちゃお」「キャハハ」「馬の耳がこんなに多くなってしまったわ」……。

ある子が「カンペキや!」と自慢していると、後ろから見ていた宮西さんが指摘します。「完璧だけど、一匹やん。もっとたくさん描かなきゃ」

高知県黒潮町の町立拳ノ川小学校(上田壮校長)で12月3日に宮西達也さんの「オーサー・ビジット」がありました。本の著者が学校を訪れて特別な授業をする、ベルマーク財団のソフト事業「教育応援隊」のひとつで、朝日新聞との共同企画です。拳ノ川小は山あいの集落にあり、児童数16人の学校です。宮西さんは、実は12年前にも同小を訪れたことがあるそうで、校舎2階にある図書室の「宮西達也コーナー」に当時の写真と宮西さんの絵本が飾られていました。

授業の最初は読み聞かせ。スライドを映しながら自作を読みます。絵本『うんこ』の際には「うんこって、大きな声で



言ってみよう」とも。そして、反応を見て「みんな言っていない。特に後ろの大人」と指摘。やり直しでは、先生方も大きな声を張り上げました。

続いてワークショップ。段ボールに黒とオレンジのペンで、自分の思うままにキャラクターを描きます。それを今度は丁寧に切り抜きます。最後に、額の中にもうまく配置して貼ると立体的な「作品」が出来るのです。

「大きいものや小さいもの、どんどん

描いてください」と宮西さん。犬猫や熊、馬、魚、自動車、宇宙人、オバケ……。子どもたちは色々なものを描きます。宮西さんはみんなの間を回りながら励まします。「がんばれ。苦労しただけ作品がよくなるから」とも。

切り抜きが終わると、みんな額を持って宮西さんの前に並びます。「かわいいね」「すてきだよ」と言いながら、宮西さんは額の中に子どもたちが切り抜いたキャラクターを配置し、接着剤で固定し



ていきます。こうして、とっても個性的で素敵な16の作品が誕生しました。

最後に宮西さんはみんなに語りかけました。「絵って、少し構図を変えただけで、全然違うものになる。立体にすると、光と影も加わります。みんなも、ちょっと工夫することを覚えて、絵を描くのは楽しいなって思ってください。今日は楽しかったですか?」

「はーいっ!!」。とっても大きな返事が響きわたりました。

2年以上かけて集めた330万点を寄贈

ジブラルタ生命保険と松本ベルマーク大使

協賛会社のジブラルタ生命保険(ベルマーク番号15)が、全国の約800拠点で集めたベルマーク330万点を財団に寄贈しました。財団に一度に届いた寄贈マークとしては、恐らく過去最高の点数です。

財団が任命するベルマーク大使で同社執行役員の松本哲さん、コーポレート・クオリティ推進チームの阿部玲子さんと加藤幸治さん、周年事業タスクフォースの大西理恵さんと石神陽子さんの5人が12月10日、財団を訪れ、段ボール7箱にも及ぶマークを寄贈しました。箱に隙間なく詰め込まれたマークは社員の手によって仕分けされ、会社別に点数を計算してありました。

ジブラルタ生命保険は協賛会社になった2004年以降、全国の営業拠点や本社でベルマークを集め、ほぼ毎年、100万点程度を財団に寄贈していました。そんな折りのコロナ禍。外出制限もあって前回の寄贈から2

年以上が経ちましたが、社員たちは収集活動をずっと継続していたのです。「本社から呼びかけなくても、常に全国から自発的に仕分けされたマークが集まる。社内でベルマーク収集が根付いている」と阿部さん。

今回のベルマークが大量になったのには、もうひとつ理由があります。同社は2021年4月、創立20周年を迎えました。例年、毎年10月の第一土曜日を「国際ナショナル・ボランティア・デー」と定めて全国の社員による社会貢献活動に力を入れてきましたが、2021年は感謝の気持ちを込めて活動を拡大。1万1000人の社員が7~12月の間、組織の垣根を越えて様々なボランティア活動を展開しました。中でもベルマーク収集に取り組んだ社員は清掃に次いで2番目に多かったそう。「コロナ禍で集合での活動が難しい中、個人で出来る、ということが大きな要因だった」と松本さんは話しました。



④左から阿部玲子さん、加藤幸治さん、石神陽子さん、大西理恵さん、松本哲さん。オリジナルTシャツに着替えて
⑤財団の岡部敦郎事務局長にベルマークを手渡す阿部さん

今年もベルマークを持参

調布市職員有志が寄贈

東京都調布市の市職員が集めたベルマークが、今年も寄贈されました。城戸雅幸さんと山崎守さんが12月17日、この1年間に集めたベルマークを届けてくれました。

調布市では各職場や文化会館など100近い場所に回収箱を置き、職員や市民からベルマークを集め、毎年のように財団に寄贈しています。今年はコロナ禍でもあり、仕分け・集計は省略しての持参

でしたが、「コロナ禍の影響が良い方に作用して量が増えたと思う。ベルマーク収集はもうすっかり定着した感じがします」と城戸さん。

昨年まで主体だった市職員でつくるボランティアクラブがメンバーの退職などで解散し、今回の寄贈は有志から、という形に。でも職員の中には活動に興味を持ってくれた人もいます。今後も収集を続けられたらいいですね。



山崎守さん(左)と城戸雅幸さん。たくさんのベルマークを寄贈してくれました

日清フーズが「日清製粉ウェルナ」に社名変更

協賛会社の日清フーズ(ベルマーク番号24)は2022年1月1日に社名変更し、「日清製粉ウェルナ」になりました。ベルマークの扱いに影響はありません。

同社は、ファミリーブランド「マ・マー」の「サラダマカロニ」「スパゲティ1.8mm 300g」「スパゲティ1.6mm 300g」にベルマークを付けてくれます。

日清製粉
welna
日清製粉ウェルナ